

2025年までに173万坪の生産を計画

ポラテックに聞くプレカットの動き (後篇)

ポラテック(株)
専務取締役 北大路康信

日本最大のプレカット工場を全国6か所に擁するポラテック。2020年度は、年度末の市場の混乱の影響を受けるも、2025年までに173万坪の生産とする計画で、工場の機械設備のリニューアルや、人とロボットが共存するより生産性の高い工場づくりに取り組んでいる。

ポラテックの北大路専務にプレカット工場の生産性をテーマにインタビューした。



ポラテック株式会社 専務取締役 北大路 康信

【プロフィール】

ニチメン株式会社を経て、1998（平成10）年、ポラテック(株)に入社。

2000（平成12）年プレカット事業部長、2007（平成19）年、同社常務、2014年（平成26年）同社専務、現在に至る。

プレカット材の加工実績で日本一を誇る工場の司令塔として活躍している。

木材市場の混乱 収束に向かう

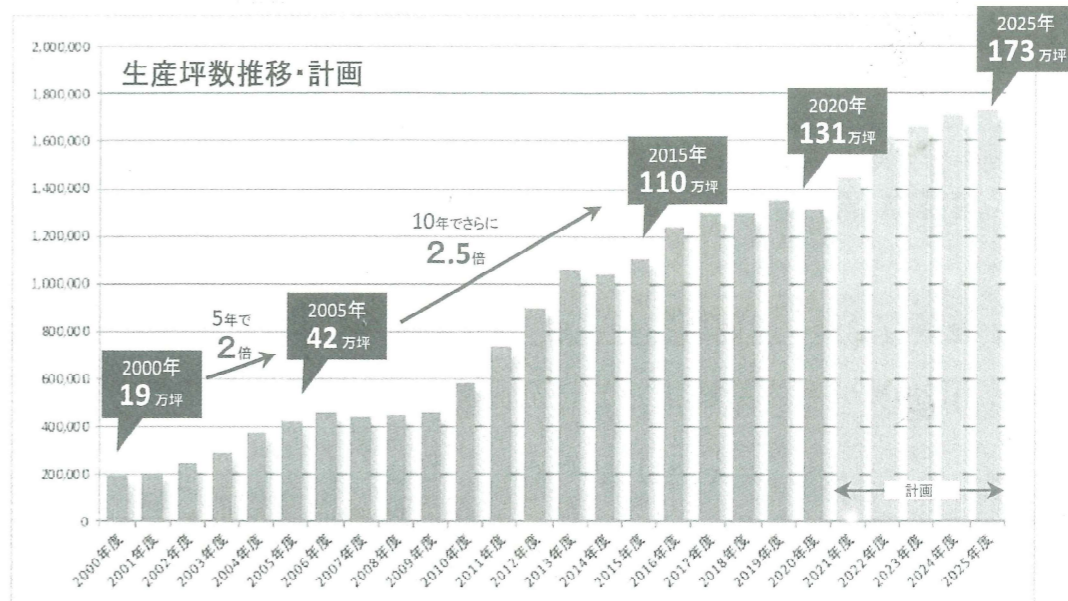
—：前回（第46号）のインタビューでは、ウッドショックの影響について質問しました。

ポラテックでは、6月以降は通常通りの稼働に戻つつあるとのこと、北大路さんの予想通りになりましたね。

北大路：全国6工場の稼働の方は通常通りとなってきましたが、価格の上昇の方は、まだ不安材料が残っています。3カ月おきの仕入れなので、次回の価格はまだ未定です。業界に先駆けて稼働が回復したわけですが、弊社では、フィンランドに木材調達のための事務所がありますので、事態の把握と取捨に大きく寄与しました。

—：6月にボラスグループの3月期決算が発表されました。ポラテックのプレカットの構造材生産坪数は、前年比97.6%と前年を下回る結果となったようです。

北大路：2020年度は、上半期の国内需要が安定していたので、年明けまでは、前年比で2~3%の増加を予定していました。それまで



(図1) ポラテック6工場と生産坪数の推移と計画 (2000年~2025年)



(図2) 全国5県に工場を持ち、中国2社、ベトナム2社のCAD設計分野の合弁会社、フィンランドに木材調達会社を持つ

は、相場も何とか落ち着いていたので、ペイマツからオウシュウアカマツなどへの樹種変更を積極的に提案することで、供給リスクを回避していたのですが、年度末の

木材市場の混乱で、ついに供給危機が発生し、前年を下回る結果になりました。

今回の動きは一過性のものと見ていて、今後の計画としては生産

量を年々増加させていく計画です。2020年の生産坪数131万坪から、2025年には173万坪とする計画です。増産のカギとなるのは、引き続き増加が予想される中大規



およそ 50 台のロボットが工場内で稼働中

模木造建築物ですので、特殊加工機を新設するなど多種多様な加工への対応を進めて、品質安定化を図っています。

富士工場（静岡県）では、1月から月産1万2,000坪の新しいラインが稼働しはじめました。九州では佐賀工場「レインボーフィールド」の第2工場の加工ラインが6月から稼働しはじめました。この第2工場は月産7,500坪を加工することができます。今後も全国の工場でのリニューアルを進めていきます。

ダークミルは 生産性低く見直し

——：富士工場では、ダークミル（無人化工場）の構想が進められていたようですが、最近はどうなりま

したか？

北大路：富士工場のダークミルは、方針を見直すことになりました。当初は、薄暗い無人の工場、自動化された機械やロボットだけが動いていれば生産性があがると思っていたわけです。ところが、人が一人も動いていないと生産性が悪いので、人を入れるようにしました。入口と出口に人がいて、フォークリフトで搬入して、搬出では人とロボットが共存する方が生産性があがるのが分かったのです。

ロボットは、工場内で邸別の搬出作業を行うスタッフの作業をサポートする上で欠かせないので、全国の工場に50台を導入しています。

——：ロボット50台というのは、業界では圧倒的な規模と言えるで

しょう。そもそも、全国で数百社ほどある一般的なプレカット工場では1日に1～2棟分の構造材の加工が平均的で、1日10棟加工できれば、かなり大きな工場と言えます。ポラテックでは1日あたりどのくらいの規模で加工しているのですか。

北大路：ポラテックでは月産3,000棟分、1日あたり100棟分の規模で加工しますから、プレカット工場では圧倒的な業界ナンバーワンです。こうした厳しい時期ですので、プレカットでは、ぜひポラテックを頼ってください。